

学 位 論 文 要 旨

博士課程 ①・乙	第 号	氏 名	藤岡 崇伯
<p>[論文題名]</p> <p>Ultrasonographic evaluation of the caudal vena cava in dogs with right-sided heart disease 右心疾患に罹患した犬における超音波検査を用いた後大静脈指標の臨床的有用性の検討</p> <p>Journal of Veterinary Cardiology, 34: 80-92, 2021, DOI 10.1016/j.jvc.2021.01.005.</p> <p>[要 旨]</p> <p>[背景]人医学では、右心機能不全に罹患した患者において、超音波検査法で計測した下大静脈径は静脈うっ血の程度を評価する指標として一般的に用いられている。しかしながら獣医学では、静脈うっ血の評価に際し、そのような客観的な指標は報告されていない。今回、我々は右心疾患に罹患した犬において、超音波検査を用いた後大静脈（人の下大静脈に相当）指標がうっ血性右心不全を特定する指標になりうるかを調査した。</p> <p>[供試犬] 50 頭の健常犬（コントロール群）と 67 頭の右心疾患に罹患した犬を用いた。さらに、右心疾患に罹患した犬を、うっ血性右心不全を伴わない群（n=43）とうっ血性右心不全を伴う群（n=24）に大別した。</p> <p>[方法] 後大静脈指標と従来の心エコー指標を、各群間で計測および比較をした。また、ROC 解析を用いて、右心不全を特定するための感度、特異度、カットオフ値を算出した。</p> <p>[結果] 後大静脈面積が最小となる呼気時での超音波断面像を用いて計測した後大静脈の最小短径／大動脈径比、および同断面を用いた後大静脈の最小短径／長径比が、最も良好に右心不全を特定することができた（AUC > 0.925）。</p> <p>[結論] 右心機能の評価するための従来の心エコー指標に加えて、後大静脈指標（特に最小短径／大動脈径比および最小短径／長径比）は、うっ血性右心不全を特定するための有用な診断指標であることが示唆された。</p>			

備考 論文要旨は、和文にあつては2,000字程度、英文にあつては1,200語程度